

天遊

大阪教育大学広報誌 TENYU
Autumn.2014 No.31



Contents

02 就職最前線

男女共同参画推進コラム
手をつないで Vol.8

04 新任役員紹介 入口理事に聞く！

05 STUDENTS NOW!

08 ラボ訪問

10 卒業生キャッチ

11 附属学校園ウォッチ 本読みのススメ 第9話

12 TOPICS



人にまっすぐ。
大阪教育大学

就職最前線 動向と対策

就職支援

だけでなく、学生一人ひとりの将来を見据えて

秋も深まるこの季節、来年度の採用選考開始に向けて、キャリア支援センターに足を運ぶ3回生も増えてきました。今後の就職動向と大学の支援体制について、教員採用では田中達キャリアアドバイザーに、企業就職では田崎悦子副センター長にそれぞれ見解を伺いました。

教員採用編

田中達

たなか とおる

キャリア・アドバイザー
(教員就職相談・指導担当)

元大阪府教育委員会教職員課管理主事、
元小学校校長等を歴任し、平成24年4月から現職。



現在教員採用試験の試験方法は多岐にわたっており、模擬授業や、学級内での役割を演じるロールプレイなど、より現場対応力が求められる試験方法が重視されています。このような試験に対応するため、丁寧な訓練指導を実施しています。また本学独自の取り組みに、同じ自治体の教員を志望する学生が、筆記面接対策などの情報交換をする『教授cafe』があり、本センターも面接練習の指導などでサポートしています。学生時代は良きライバル、教師になってからは良き同僚として交流が続くのが良いところです。

アドバイザーとして常に心がけているのは、単なる試験対策でなく、学校現場で働く意識を高める指導をすることです。4月から半年かけて、教職に就くことの責任や教師としての在り方を自覚させ、学生から教師へと心構えの切り替えを図ります。なぜ教師になりたいのか、どんな生徒をどう

やって育てたいのかを問いかけ、自分の明確な答えを持てるよう促します。また、ときにはわたしが荒れた子どもを演じ、どう対応するか、シミュレーションさせます。その際に、過去の経験を思い起こさせるのです。子どものとき、どういう教育を受けていたか、問題を抱えた子どもに対して自分は、周囲は、教師はどうしていたか、そこにヒントが隠れています。自身の体験談や失敗談から解決策を探り、現場での対応力を磨く訓練をしています。

教員採用の今後の動向については、流動的なので予測が難しいですが、教科でいえば、国・理・数・英は増加傾向、社会・保体・芸術系は募集数の少ない状況が続くでしょう。自治体では、都市よりも地方で採用の裾野が広がる見込みです。また自治体は、大阪府の『大阪教志セミナー』、堺市の『堺・教師ゆめ塾』のように教員志望学生へのセミナーを開き、早い段階から有望

な学生を囲い込む動きを始めています。本センターでは3回生から採用試験対策を開始しますが、より早い段階から教師になるための意識を啓発する必要を感じており、全学的な支援を期待しています。



企業就職編

田崎悦子

たさき えつこ

キャリア支援センター副センター長
(キャリア教育・就職支援全般)

(株)テレビ朝日、第一生命保険(株)、(株)au、(社)日本経営協会、
(株)AIRDO、札幌大学女子短期大学部等を経て、平成24年4月から現職。



経団連が平成27年度卒の採用選考の開始時期を大学4年の8月からと打ち出しましたが、日本企業約422万社のうち経団連の会員企業は1,300社あまりにすぎず、実際は、7月までに選考開始と回答する企業は7割を超えているようです。また、文部科学省による就職率は平成25年度卒では94.4%と発表されていますが、就職を希望したものの、途中で進学やアルバイト雇用に切り替えた学生や、就職留年した学生は分母から除外されるため、実質的な就職率は60%台と推測されます。目まぐるしく変わる情勢の中、キャリア支援センターでは就職後のキャリア形成まで見据えた支援をしています。

本センターの企業就職支援における催しは、就職ガイダンスを軸に現在60を超え、平成25年度はのべ3,892人が利用しています。企

業・業界等の情報や社会情勢を理解するとともに、自分自身の特性を理解することが大切です。企業研究と自己分析をすることで、働く意義や使命など、自分の就職活動の軸が明確になります。しかし、さまざまな事情で十分な準備ができないまま就職活動を迎える学生も一定数います。そんな学生への支援として『今からでも間に合う対策講座』や、『リ・スタート講座』を設けています。少人数のため、よりきめ細かな指導ができるのが特徴です。そしてインターンシップ。今年度から就職活動解禁時期が遅くなり、参加した学生を採用に結びつける企業も増えたことで重要度が増してきました。インターンシップ体験での気づきや学びは大学生生活に活かされ、成長につながるので、1、2回生のうちから経験して欲しいと考えます。

個別の支援では、アドバイザーを中心に、学

生一人ひとりの価値観を尊重して、社会情勢をふまえた上で、主体的なキャリア形成ができるよう支援しています。進路選択での悩みや活動中の不安など、とことんまで付き合いますので、ぜひセンターへ足を運んでください。



男女共同参画
推進コラム

手をつないで

Vol.8

レディ・マドンナの幸せとは

ビートルズにレディ・マドンナというヒット曲があります。それは次のような歌詞で始まります。

Lady Madonna, children at your feet
Wonder how you manage to make ends meet
by Lennon & McCartney

ところで、最近巷でウーマノミクスという言葉をよく耳にします。Woman(女性)+ Economics(経済)の造語で1999年に生まれたそうです。ウーマノミクスを推進する根拠は男性労働者の減少を女性労働者で補完することによって経済効率を維持し、経済成長を達成する点に求められています。多くのマスコミの論調では男女共同参画とウーマノミクスはほぼ同義

で、これを受けてマスコミが描いている「女性の社会進出」のイメージは、まさにステレオタイプのキャリア・ウーマンです。男女間とあわせて同性間での格差も問題化している状況なのに、です。

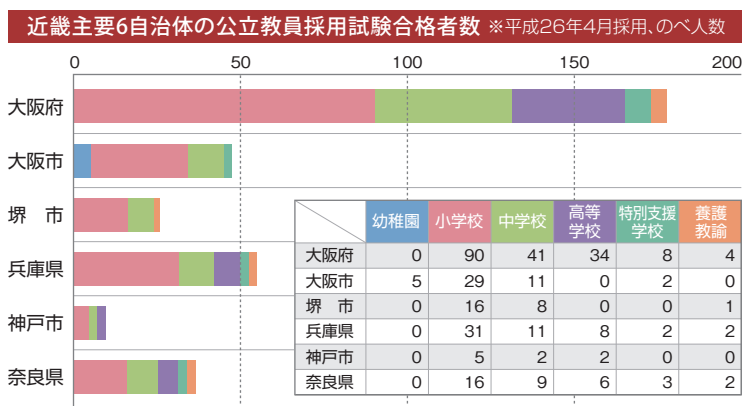
さてさて、レディ・マドンナの話にもどりましょう。この歌の含意については諸説あります。マザーグースのパロディであるとか当時のイギリス財政に対する皮肉であるとか、はたまたポールのエルヴィスに対するオマージュであるとか。しかしこの曲が支持されている理由は次の点にあるのではないのでしょうか。着飾る余裕もなく毎日毎日子育てに追われている労働者階級の女性の姿を「マドンナ」と歌うポールの優しさや温かいユーモアに感動するから。

男女共同参画社会の目的は、男も女も関係なく、だれもが自分らしく生きられる社会をつくることです。ウーマノミクスという言葉聞いたとき、私は思わずこの曲を口ずさんで考えました。レディ・マドンナの幸せとは、と。

男女共同参画推進会議
企画専門部会委員 高山 新(社会文化講座・教授)

時代の流れに沿った支援を

本学は、教員採用者数(講師含む)ではここ数年全国トップクラスを誇り、小・中学校教員採用者数(529名 含大学院)では全国1位を獲得しました(大学ランキング2015、週刊朝日進学MOOKより)。また企業就職においても、毎年200名以上の企業就職実績を残しています。今後も過去の実績に驕ることなく、時代に対応した実践的な就職支援を展開してまいります。



入口 豊 理事(就職担当)

主な就職先(任意抽出)	
学校教員 (幼稚園・小学校・中学校・ 高等学校・特別支援学校など)	積水ハウス JTＢ西日本 リクルートジョブズ
野村證券	アメリカンファミリー生命保険会社
南都銀行	ワコール
JR西日本	高島屋
パナホーム	象印マホービン
富士通	東京アカデミー
ANA	アルペン
りそな銀行	藤本製菓
朝日放送	青山商事
NTTコミュニケーションズ	西利
ベネッセコーポレーション	公務員

新任役員紹介

入口理事 に聞く！

Iriguchi Yutaka

いりぐち ゆたか
入口 豊 理事・副学長
学生担当 平成26年4月就任



「学生担当理事という、常に学生に目を向けられる天職ともいえる役職を任じてもらい、大変感謝しています。大学には人生の3分の2をお世話になっていますから、その恩返しとして、情熱をもって任務に邁進し、後進に道筋をつけるのがわたしの使命です」と抱負を力強く語る入口豊理事。入試・学生支援・就職・大学評価・HATOプロジェクト*の5つの分野の長として多忙な日々を送りながら、学生ともざっくばらんに語り合う、大学きっての熱血理事です。

入口理事は大阪市都島区で生まれ育った、生粋の浪速っ子。幼少時からスポーツ少年で、児童会や生徒会の会長も務めるリーダー的存在でした。大阪教育大学への進学理由は、学校と子どもが大好きで、文武両道でありたいことから。しかし、「入学時は大学闘争の真っ只中。バリエード封鎖で入学式も卒業式もありませんでした」と苦笑い。

東京教育大学(現筑波大学)大学院の修士課程を修了した後、本学の教員として再出発しました。「大学教員はいわば、教師の教師。学生だけでなく、間接的にその学生の教え子の教師観にも影響を与えます。その使命を果たすことで母校に報いたかったのです」と若き日の決意を語ります。よき兄貴分として学生の心をつかみ、ゼミとクラブで常時約100人の学生と密に接してきました。

大きな転機は、30代の初め頃、生後まもない長男を亡くしたときでした。「悲しみに暮れるわたしを救ってくれたのは、学生たちの生き生きとした姿でした。それまで学生に対して兄のように接していたのが、父の目線になり、自分の教師観も大きく変化しました」と当時の心境を語ります。

学長補佐時代には組織改革に手腕を発揮しました。「優秀な学生を育てて、社会に送り出すことこそ大学の責務ですが、教養学科では400人もの学生を抱えながら企業就職対策は不十分で、教員採用試験対策も教員養成課程の中だけに留まっており、就職支援の機能を十分に果たせていませんでした。私立大学は就職の強さを全面に打ち出していますし、このままでは優秀な学生に敬遠されるとの危機感がありました」。入口理事が発起人となり、独立した就職支援組織として、2010年にキャリア支援センターを設立。初代センター長として専門のアドバイザーを招へいし、100以上の講座を開設するなど、今日の支援体制の礎を築きました。

理事となった現在でも監督を務めるサッカー部は、現在関西学生

1部リーグ唯一の国公立大チームで、自慢の存在。理事室には風変わりなTシャツが掛けられています。入口理事の似顔絵が施されたその名も『Iriguchildren Tシャツ』。サッカー部の学生が卒業時に贈ったものです。背中には「荷物が重いんじゃない、力が足りんのや」の文字が刻まれています。「わたしが常日頃、力を発揮できないことを周囲のせいにする学生に対してこう口にしていたのを心に留めていたようです」。以来、チームのサブユニフォームとして、現在で3代目となる宝物です。

趣味は古代史研究で、日本全国津々浦々の寺社仏閣を廻っています。「国宝の仏像も多く目にしましたが、端正な顔立ちばかりではありません。これはわたしの推理にすぎませんが、時の為政者が自分に顔を似せてつくらせたのではないかと思います。仏像の姿なら人々はありません」と独断の鋭い切り口で持論を展開し、インタビュー時間の半分を費やすほど熱がこもっていました。

※北海道教育大学(H)愛知教育大学(A)東京学芸大学(T)大阪教育大学(O)の4大学が中心となって教員養成の高度化支援システムを構築するプロジェクト。

【略歴】

平成8年11月～平成26年3月……大阪教育大学教育学部教授

平成20年4月～平成22年3月……大阪教育大学学長補佐

(就職支援実施委員会担当)

平成22年4月～平成24年3月……大阪教育大学キャリア支援センター長



STUDENTS Now!



成長の瞬間
立ち会えるように

谷口 直津夢さん
Taniguchi Natsumu

学校教育教員養成課程
教育科学専攻 4回生

「先生、日本ってなんで教科書では日本国って書いてるの?」。生徒の一人が教科書に載っていない難問を問いかけます。「突拍子もない発言をされると、うまく切り返せません。毎日想定外に出会います」と授業を振り返って苦笑する谷口直津夢さんは、只今教育実習奮闘中です。

谷口さんは3週間の併習実習中。通常派遣される附属学校の定員が満員となったため、地元箕面市の市立第四中学校で実習しています。授業がない時は実習先の指導教員の授業を教室の後ろで見学し、一言も聞き洩らさないよう必死でメモをとります。さらに午前と午後の空いた時間に2回、反省会と称して指導教員と授業の良かった点、悪かった点を振り返ります。実習生同士でも実習中の悩みや反省点を語り合いながら、夜遅くまで指導案を作成し、一日が終わります。

実習の感想を聞くと、「知識や経験の不足を痛感しています。授業しながら子どもたちの様子も観察しないとイケませんが、今は授業するだけで精一杯です」との答え。この夏に中学校で初めて導入された電子黒板での指導にも、「席によってはカーテンから漏れる日差しが反射して黒板が見えなくなるので、蛍光灯を消すのですが、暗になると眠気が誘発されるようです。でも板書だけだと

また眠くなる。蛍光灯を頻繁に入り切りしても集中力がそがれてしまいます。スイッチひとつでも神経を使いますね」と悪戦苦闘しています。

1回生のときから大学の『教育研究会』サークルで柏原市内の放課後児童会に参加したり、池田市の『ふくまる教志塾』の授業ボランティアで実践経験を積み、子どもとの接し方はある程度感覚をつかんでいましたが、教壇に立ち、授業をすると勝手が違うようです。「ボランティアは先生という立場ではないので、子どもの方から積極的に駆け寄ってくるのですが、実習では子どもたちも先生という意識があるのか、授業で反応の薄い学級もあります」。担任の先生に相談すると、学級にリーダーが不在で、皆遠慮しているようで、「授業で手を挙げたくなるような興味を引き出す工夫をしたり、休み時間に積極的に子どもたちとふれあって授業につながればと思っています」と子どもたちとの関係の構築に努めています。

昨年は附属池田小学校で4週間の基本実習を体験しましたが、その反省も今に活かしています。「小学校は学級担任制なので、同じ授業は二度とできません。その点、中学校は複数の学級で同じ単元を教えますから、1回目よりも2回目、2回目よりも3回目と修正できるように心掛けています」。附属と公立

学校の違いについては、「附属は実習生慣れているところがありますが、ここでは実習生が新鮮なのか、子どもたちから駆け寄ってきます。それに附属は授業進度についていけない子どもは少ないし、家庭環境も似通っている。公立の学校は家庭環境や学習能力の異なる子どもたちがともに学習しているので、指導や接し方を学ぶのにここへ来た意義は大きいです」と語ります。

将来の夢はもちろん教師。「子どもは朝でできなかったことが夕方できたりと、一日の中でも変化が大きい。そんな成長の瞬間に立ち会いたいです」と目を輝かせます。実習でも成長を観察中。「子どもたちは昨日と今日ではまったく違う顔を見せます。きっと今日と明日でも違うはずで、そんな子どもたちに柔軟に接していきたい。体当たりでやるしかないです!」





「環境を変えることで、課題に取り組むヒントを得て、自身の音楽表現を見つめなおしたいと思いました。それに、数々の著名な作曲家を世に送り出した地で、彼らが何からインスピレーションを受けたのか、そこで生活することで体感したかったです」と留学を決意した経緯を振り返ります。

小笠原沙紀さんは日本学生支援機構(JASSO)の奨学金給付制度を利用して、ドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学に1年の短期留学を経験しました。音楽コースからは小笠原さんが第一号。音楽に専念できる環境ではないとの周囲の声もありましたが、「新境地が切り開けるかは自分次第だと思いました」

授業は日本学部の学生との語学交流プログラムや、集中語学講座など、語学が中心ですが、その他の専門授業は教員の許可が下りれば自由に選択できます。小笠原さんは『教



会音楽コース』で音楽理論やパイプオルガンの演奏法を学び、ドイツで開講されているマスタークラスに参加するなど、ドイツ音楽の理論と実践を学びました。ドイツは人と時が静かに流れており、毎週礼拝に訪れた教会は、穏やかな気持ちで音楽と向き合い、自身と対話できる空間だったといいます。「わたしはせっかちで、気負いすぎるところがあり、音楽表現にもその気質が表れていることに気づかされました。ドイツ人にとって教会は生活の一部ですから、作曲家の感じた空気に触れたい目的で教会に訪れていたのですが、自身の課題が鮮明になりました」

異国の地に暮らすことでほかにも多くの収穫があったようで、「日本人はよく“すみません”を言葉のつなぎとして使うことがありますが、そのまま訳すと“なぜ謝るの?”と不思議がられました。ドイツはドイツ、日本は日本の、風土や気質にあった繊細で絶妙な言い回しがあり、ただ直訳すればいいものではないのです。そういった感覚は、日本人が西洋音楽を研究する上でも必要になってくるのだとも感じました」といいます。その中で「言葉が通じない人とも、音楽を通して心が一体になりました。世界共通の言語なのだとあらためてわかりました」と音楽が国境をも越えることを実感しました。

ドイツの大学で学んだことで本学の良さも

再認識しました。ドイツの大学ではすべて自分のことは自分で管理するのが基本で、自発的に目的や方向性を明確に伝えないと教員は対応してくれません。そこに本学とは違う厳しさを感じ、刺激になったといいます。その上で、「本学の音楽コースの先生方は、奏でる音色や演奏時の様子で学生一人ひとりの特性を見極める力があり、とても丁寧に、理論的かつ感覚的な部分も細かく指導してくれます。それに、国際センターの赤木登代教授をはじめとする、専攻外の先生方の温かくわけ隔てのない支援のおかげで留学できたのだと実感しました」と感謝の言葉を口にしました。

将来は演奏家、教育者として音楽に携わりたいといいます。「授業を通して、技術だけではなく、感情や情緒を育む指導をしたい。特に高校生は進路に迷う時期なので、生徒の心に寄り添える先生になりたいですね」と夢を語ります。

留学を希望する後輩に向けては、事前の準備の大切さを強調します。「海外に行ってからがスタートではなく、日本にいる時でも語学の勉強など出来ることはたくさんありますし、その分だけ得られるものも多い。ただ、それが間に合わないとしてもあきらめるのではなく、行ってから追いつこうという意気込みが一番大事。新境地が開けるかは自分次第です」



ステージ中央で、光沢のある青いYシャツと黒い蝶ネクタイの衣装に身を包み、軽やかに身を翻す長身の青年。モダンダンス部所属の入江健志さんです。「衣装も作品のひとつなので、目に留まるよう工夫しています。格好良いと思ってもらいたいですから」とこだわりを口にします。普段の生活でもダンスは一心同体。「自分の思い描く理想のダンスにつながるように、読書したり、映画を鑑賞したり、音楽を聞いたりして教養を深めています。365日ずっとダンス、ダンス、ダンスです」

現在は11月に開催される『第10回京炎そでふれ!全国おどりコンテスト』(主催:京都学生祭典)に向けて稽古中。優勝チームのみが平安神宮の舞台に上れます。「昨年は準優勝だったので、今年こそ頂点を狙いたい。テーマは大和魂です。創作ダンスはテーマのイメージをお客さんに想起してもらえかがすべて。見る人に思いが伝わるダンスを披露したい」と抱負を掲げます。ダンス部では副部長を務めており、「人間の心の機微が踊りに反映されるので、気持ちを高揚させる声掛けを常に意識しています」と心得を語ります。

モダンダンス部は、大学の支援を受けて学生が自主的・創造的な活動に取り組む『学生チャレンジプロジェクト』にも毎年参加し、ダンスを通して学内外の人々と交流を深める数々の取り組みを展開しています。今年の

テーマは「Dance and Arts Educational Communication」。柏原市のキッズダンサーとともに作品を創り上げて踊ることで、子どもたちの夢と心を育む取り組みもそのひとつです。昨年度は子どもたちのコミュニケーションが不足していたようで、「年齢層やダンスに向き合う姿勢の違いから、一方的な指導になってしまい、子どもたちに壁を感じさせてしまいました。今年は子どもたち一人ひとりと、より密に交流し、ともに成長していきたい」と決意を新たにします。コミュニケーションの大切さは部内でも同じで、「皆、自身の世界観を確立しているので、個性が主張となってぶつかることもあります。しかし、それぞれの意見を尊重して話し合いを重ねる、その工程をおろそかにしては納得のいく作品はできません」と語ります。

最近では踊るだけでなく、脚本や演出にも関心を寄せています。大学のゼミでは近現代文学を選択していますが、そこにも創作につながるヒントがあるようで、「ダンスの演出家が音楽や美術など、異なる芸術から着想を得ることが多々ありますが、ぼくも授業で学んだ文学作品を創作ダンスで表現したいと思っています。教科書からいろんな発見が生まれて楽しい」といいます。さらに活動の幅を学外にも広げ、社会人劇団の振付も手掛けています。「ダンス未経験の方ばかりなので、指導の

仕方などダンサーへの振付とは違う難しさがありますが、きれいに揃った振付にもそれぞれの個性があふれていて、ぼくもダンサーとして勉強になります。それに、興業として生計を立てているプロ集団と仕事することは、将来のためにもなりますね」

将来の夢は、劇団に入って役者兼演出家として活躍すること。教員をめざす友人からは不安定な職業を心配する声もあるようですが、「実力をつけることが最大の安定だと思います。それに、役者と教師は実はよく似ています。教壇に立って、楽しく心にしみる授業で大勢の子どもを魅了するのが実力のある教師だと思うのです。ぼくも観客の心をつかむ役者となって、ゆくゆくは自分の劇団を旗揚げしたい」と新天地に思いを馳せていました。





File.32 Nakaya Fumio

特任准教授
仲矢 史雄
科学教育センター

学びの可能性を広げるために

「ICT(情報通信技術)を活用できる先生が今日求められていて、その仕組み作りの開発をめざしています。ただし我々の究極の着地点は、チョーク一本だけでも授業のできる教師を養成する仕組みをつくること。ICTは教師の能力を引き出すものであり、それがないと授業ができない、ではいけないと考えています」

科学教育センターの仲矢史雄特任准教授は、科学教育の実践とともに、教育分野でのICT活用を実現する教材や機器を研究開発し、教育現場と企業をつなぐ懸け橋として、大学の新たな価値創造に取り組んでいます。コニカミノルタ株式会社と連携し、ノートやレポート等の紙書類を二次元バーコードでデジタル管理する『スマートポスト』の開発に携わるなど、産学連携による製品を次々と生み出しています。

中でも、国立大学改革強化推進事業(HATO／京阪奈三教育大学連携)の一環として開発し、実用化に向けた試行が進んでいるのが、教育実習専用SNS(web上での人と人との交流を促すサービス)『スマートフォリオ』です。「これまでの教育実習では、記録が書類のため管理が煩雑で、しかも実習生に評価書類を返却すると実習記録が残らず、総合的な評価が困難でした」。このSNSではメッセージの送受信のほか、PCで作成した電子ファイルや、前述のスマートポストで電子化した書類、画像、動画を共有でき、コミュニティ内で公開範囲を限定することも可能です。PCのほか、タブレット端末やスマートフォンからも利用できます。

SNSの代表格『Facebook』との違いは、動画を撮影・再生・編集できるソフト『スマートレコーダー』の存在。使い方は、実習生がスマートレコーダーで授業を撮影し、動画をスマートフォリオ上に公開します。再生した映像から自身の授業内容を復習できるほか、スマートレコーダーには再生時間軸上でコメント付加機能があるため、実習先や大学の指導教員に要所ごとのアドバイスコメントをもらうことができます。画面上にクイズやその回答時間を設定することも可能で、デジタル教材開発のトレーニングとしても使えます。

教育現場での普及を主体にICTツールの研究開発を展開していますが、この技術を活用して、一般に向けた実用化もめざしています。「教員養成系大学は学びの専門家であると同時に、人材能力育成の専門家でもあります。教師は40人の子どもを相手に、読む・書く・聞く・話すの技能を習得させ、さらに一人ひとりの特性を見抜き、向上させる能力が求められますが、そのノウハウは今、企業からも求められているのです」。例えば、教師の観察能力訓練は適材適所の人事配置に、教科書の開発技術はマニュアルの作成に発展できるといいます。「教員の産業化というと、これまでは受験関連とみなされがちでした。しかし、人材育成という観点から見た場合、総合大学にはない新しいニーズを開拓できる可能性を秘めています」

また、開発している教育用アプリは便利な機能を搭載していますが、あえて不便さもつづけています。「カーナビゲーションに頼ると地理を覚えなくなるでしょう。機械がすべてまかなうと人間がいなくとも学習が成り立つと思ってしまふ恐れがあります。しかし、人間が考え、生み出す力は無限大で、それが軸でなければ本当の意味での支援ツールとなりません」と真意を語ります。

趣味はマテ貝ハンティング。砂浜に巣穴をつくるマテ貝は、塩をかけると穴から体を出す習性があります。「つかまえるにもコツがいります。あざりに似た味で、つかまえて楽しい、食べておいしい」。なぜ塩に反応し飛び出してくるのか、メカニズムや理由が完全に解明されていないのも興味をそそる要因。「水酸化ナトリウムや塩化アンモニウムでは反応しないんです。天敵の鳥が飛び交う中、不用意に顔を出すのは、即、死を意味します。なぜそんな行動をとるのか解せません。解明したら論文にしたい」と少年のように目を輝かせていました。



父親が笑顔になる社会の構築を

「えっ、ほんまに取るんですか?」。18年前、長男の誕生により育児休暇を申請した際の人事課職員の言葉です。男性の育児休暇取得のニュースは全国的にも話題になり、新聞で連載*を持ったほか、テレビにも取り上げられました。そのとき芽生えた“自分の手で子どもを育てることは特別なことなのか?むしろ、大騒ぎするこの社会がおかしいのではないか?”との疑問が現在の研究の出発点です。

小崎恭弘准教授は今年の4月から家政教育講座で教鞭をとっています。研究テーマは『育児における父親支援とそれを支える社会システムの構築』。西宮市の男性保育士第一号として12年間勤務し、家庭では3児の父親として3回とも育児休暇を取得した経験が根幹にあります。これまでの活動は三つに分類されます。一つ目は講演会での父親への育児方法の指南、二つ目は父親育児支援についての研究、そして三つ目が社会制度を変える枠組みの形成で、これらが相互に機能することが大切だといっています。「どれかひとつが機能したからといって、父親の育児しやすい環境は整いません。これまでは父親だけに焦点を当ててきましたが、父親の努力だけでは限界があります。行政、企業、地域といった社会全体の整備が必要です」と訴えます。

厚生労働省の主催事業に、社会全体で父親の積極的な育児へのかかわりを推進する『イクメンプロジェクト』があります。小崎准教授が顧問を務めるNPO法人ファザーリングジャパンはこのプロジェクトを共催しています。『イクメン』は、2010年のユーキャン新語・流行語大賞トップテンに輝きました。しかし「6歳児未満における父親の1日あたりの育児時間は、海外の先進国が約1時間のところ、日本は約39分です。『イクメン』という言葉は広まりましたが、まだまだ言葉先行で、行動に移せていません」と現状を語ります。

その牽引役として、“父親であることを楽しもう”を旗印に父親支援事業を展開しているファザーリングジャパンですが、「設立当初は“エリートパパ”の道楽だとの非難も浴びました。でも、それは違う。個々の家庭の事情にあわせた、父親が笑顔になるための社会活動を展開しています」と強調します。そのひとつが『フレンチトースト基金』で、父子家庭の支援のために創設されました。父子家庭の生活を描いた映画『クレイマー、クレイマー』でフレンチトーストが象徴的に使われていたことがその由来です。スタッフの経歴も多彩で、中には専業主夫もいます。「その人は東大卒で自動車メーカーのデザイナーでしたが、“子育てのほうが刺激があって独創的だ”と家庭に入ったそうです。性別だけで生き方や適性を決めるのはおかしいですよ」

授業は保育領域が中心で、バケツリレー方式で学生が次々に赤ちゃんを抱いていく一風変わった取り組みも。「学生の大半が赤ちゃんを抱いた経験がなく、おしめを替えたことがあるのも3割程度です。彼らが教師となったとき、その体験なしに家族の大切さを教育することはとても難しい。赤ちゃんの偉さを実感することで言葉に重みが出るのではないのでしょうか」とその意図を語ります。

今後は父親支援を発展させ、ワークライフバランスの推進にも重点を置きます。「今の社会は振り子と似ています。男女共同参画を男女片方だけで語っていても、振り子が左右に偏るだけです。真ん中に留めて、仕事と家庭のバランスを公平に保つ、それがワークライフバランスです。今は父親支援が中心ですが、最終的には子どもが豊かに育つ社会の整備を、保育の視点から考えていきたいですね」

家庭では結婚して23年目。「周囲に大好きだと公言していますが、妻はわたしのことをそんなに好きではない。でもその片思い感がいいんです」とのろける愛妻家です。

※(朝日新聞連載『育休父さんの成長日誌』 朝日新聞社刊)



File.33 Kozaki Yasuhiro

准教授
小崎 恭弘
教員養成課程家政教育講座



テレビメディアにも多数出演



これまでの出版物と連載コラム掲載誌



宮武 正義さん
Miyatake Masayoshi
特別教科(理科)教員養成課程
1988年3月卒業
香川県立坂出商業高等学校
野球部監督 理科教諭

成長に終わりなし

32年前、阪神甲子園球場のスタンドから声援を送る一人の高校球児がいました。球児として出場することは出来ないまでも、指導者として必ずここに帰ってくる”、その決意を胸に抱き、香川県で高校教師となり、硬式野球部の監督となりました。そして迎えた監督生活24年目の夏一。「事前練習でグラウンドに足を踏み入れたとき、自然と涙が出てきました。高校時代や、監督生活での思い出が走馬灯のように甦ってきて、ああ、本当に帰ってきたんだと実感しました」と万感の思いを言葉にしました。

香川県立坂出商業高等学校野球部は第96回全国高校野球選手権大会の香川県代表です。チームを率いる宮武正義監督は監督歴24年目にして初の甲子園。野球部としては20年ぶり8回目、高校創立100周年での快挙です。

夏の県大会では「下手な小細工はせず、流れに乗って一試合一試合を大切に戦うことだけ」を考えていたといいます。そして春季県大会の王者を破り、延長戦を制すなど快進撃を続け、決勝では9回二死からの逆転勝利で40校の頂点に立ちました。「家族も普段は野球に関心はないのですが、このときは準決勝から駆け付けて、妻が珍しく喜んでくれました」と目尻を下げます。甲子園出場決定直後は報道陣が殺到し、職員室の電話が鳴りやまず、のどかな校舎は一転して祝賀ムードに包まれました。

甲子園では初日第2試合に登場。対戦相手は福井の強豪・敦賀気比高校で、宮武監督もベンチから身を乗り出して指示を出しました。「拙いプレーが出ると、それを引きずってしまいがちです。しかし過去は振り返らず、目の前の一球に集中しないと伝えました」。結果は0対16の大敗でしたが、「点差が開いても緊張の糸を切らすことなく、守備が投手を盛りたて、選手全員が持てる力を出し切ってくれました」と称えました。試合終了後は、アルプススタンドで声援を送っていた約1500人の応援団から、温かく大きな拍手が湧き起こりました。

憧れの舞台に立った宮武監督ですが、辿りつくまでは遠い道のりでした。「教師になりたての頃は、勝ちたい一心で一方通行に突っ走ってしまい、生徒がついてこないことも多く、失敗を繰り返しました」。このままではいけないと思い立ち、実績を残した監督のもとを直接訪ねたり、講演に参加したり、著書を読むなどして見識を養いました。そのうえでさらに試行錯誤を重ね、生徒との信頼関係を大切にする現在のスタイルを確立しました。「授業の理解度は問題の意図を尋ねれば測れますが、部活も一緒に、試合でミスをした生徒にそのとき何を意図してプレーしたのか、まず聞いてみる。そうすると、生徒の気持ちを汲むことができ、適切な指導ができるようになりました。それでもまだまだ途上ですけどね」と笑います。

大阪教育大学では準硬式野球部の主将を務めましたが、監督不在の中で戦ったことも今に活きているといいます。「自分たちで練習メニューを組み、戦術を考え、勝利に向かって選手一丸で努力しました。苦労と工夫を重ねた経験が指導者として糧になっています」

今後の展望については、「監督としては、自分がもっと成長しないといけませんが、それもまた楽しい。生徒を見て学ぶこともあります。人間いくつになっても完成形はないですから、どこまででも成長して、日本一のチームをつくりたい。そして教師としては、社会に貢献できる人材を送り出し続けたいと思っています」と語ります。

本学の学生には「教師は責任が重く、苦しいことも多いですが、振り返ってみてこんなに素晴らしい職業はありません。若者を社会に送り出し、世の中を変えていく大事な使命を担っています。大志を抱いて教職に飛び込んでほしい」とエールを送ります。



聖地甲子園で采配を振るう



附属池田中学校が合同討論会に参加

『社会的事象解説合戦&討論夏の陣』(主催:島本町立第二中学校)と題した合同討論会が7月21日(月)に開催され、附属池田中学校が参加しました。社会的事象への関心を高め、さまざまな意見を取り入れながら、公平な考え方を養うことを目的に企画され、あわせて6つの小中学校から63人が参加しました。

討論会は『憲法9条と集団的自衛権の行使について』を議題に展開されました。附属池田中学校および咲くやこの花中学校が集団的自衛権賛成派と反対派にわかれて解説と提案を発表し、それを受けて、摂南大学の浮田徹准教授および家本真実准教授が憲法とアメリカ法の視点から解説しました。その後、各グループに分かれて自由討論会を開き、活発な意見交換が繰り広げられました。参加した生徒からは、「さまざまな解釈があり、一概に賛成とも反対とも判断できず勉強になりました」「自由討論は、初めて自分の考えを発揮できる場だったので良い経験になりました」との感想が聞かれました。



本読みのススメ 第9話

「3」について

本学は1874年大阪に設置された「教員伝習所」にそのルーツを求めることができます。

教員伝習所は東本願寺難波別院(南御堂)掛所内に設置され、翌年「大阪府師範学校」と改称されました。その後幾多の変遷を経たのち、1949年学制改革により大阪第一師範学校(男子校:天王寺地区、女子校:平野地区)及び大阪第二師範学校(池田地区)の「3校」を包括する形で本学の前身である「大阪学芸大学」として設置されたもので、140年の歴史と伝統を有する教員養成大学と言えます。

現在でもこの「3地区」には附属学校が計9校園あり、いずれも本学との連携のもと教育研究、教育実践、教育実習の場として重要な役割を担っています。

今回はこの「3」にちなみ「3部作」として読んでいただきたい本を紹介しましょう。

まずは、大阪市出身「時をかける少女」でも有名な筒井康隆氏の『火田七瀬』3部作です。「家族八景」「七瀬ふたたび」「エディプスの恋人」は超能力者七瀬が繰り広げる笑いあり、アクションあり、最後は深遠な神の領域までも描いた作品です。続いて歴史小説の大家津本陽氏の『夢』3部作「下天は夢か」「夢のまた夢」「乾坤の夢」は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康それぞれの天下取りの野望と儚さを描いています。北村薫氏の『時と人』3部作「スキップ」「ターン」「リセット」では、時間と存在という悩ましいテーマに、SFというスパイスをかけて愛を紡ぎ出すという手法で感動の読後感が味わえます。

また、第4話でも取り上げた山崎豊子氏の『戦争』3部作「不毛地帯」「二つの祖国」「大地の子」はいずれも大作です。氏は昨年連載執筆中に急逝されました。大阪のみならず日本を代表する作家であっただけに残念でなりません。

(事務局長:若井祐次)

〈キトリ〉

天遊vol.31アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。(3つまで。その他は具体的にお書きください。)

【 】 【 】 【 】 (その他)

- ①就職最前線
- ②手をつないで
- ③新任役員紹介
- ④STUDENTS NOW!
- ⑤ラボ訪問
- ⑥卒業生キャッチ
- ⑦附属学校園ウォッチ
- ⑧本読みのススメ
- ⑨TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。()

●本誌をどこで手にされましたか。()

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎号「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

キトリ

1 「JAPAN OSAKA 留学フェア inインドネシア」で本学が魅力をPR

大阪の教育機関のPRと大阪の魅力を発信するプロモーション事業「JAPAN OSAKA 留学フェアinインドネシア」(主催:大阪府国際化戦略実行委員会)が9月20日(土)、21日(日)の両日にわたって開催され、本学もブースを出展しました。

このフェアは、若年者人口が多く経済的にも発展著しいインドネシアにおいて、大阪の教育機関18校が教育力や研究力のPRと留学生の募集活動を展開し、留学生の増加をめざすものです。両日あわせて3800人を超す来場者が詰めかけ、会場は熱気にあふれていました。

本学からは国際センターの長谷川ユリ教授が参加して大学の魅力や特色を紹介し、留学希望者の相談に対応しました。インドネシアは日本語学習者数が世界第二位であることから、日本語で問いかける若者の姿も見られ、「授業料はいくらですか?」「寮はありますか?」「日本の大学の中でどのぐらい有名ですか?」等の質問が投げかけられ、ブースは人が途絶えることのない盛況ぶりでした。



2 JR大阪駅に看板広告を設置

JR大阪駅南改札付近のコンコースに電照看板広告を設置しました。

これは、日経BPコンサルティング社による「2013-14年大学ブランドイメージ調査」及び学生を対象とした「広報に関するアンケート」において、「本学の個性や魅力が十分に広報されていない」との分析結果が出たことに対応した事業の一環です。西日本で最も利用者数の多いJR大阪駅に本学の特色をアピールする広告看板を設置することで、認知度を高め、大学のブランドイメージを向上させることをねらいとしています。

電照看板は、高さ180cm幅100cmの大きさで、大学名を中心に据え、柏原・天王寺のキャンパス風景を背景としてキャッチコピー「人にまっすぐ。」が掲げられています。そして、本学の特色である「135年を超える歴史と伝統を有する我が国無数の教育大学」「高い教員採用数を支える四年間積み上げ型の教育実習」「きめ細かいキャリア支援で教員採用率94.4% 教員採用者数586名※」も強調されています。

赤木学長補佐(広報担当)は「JR大阪駅という西日本最大のターミナルに広告を出すことで、より多くの方々に《大阪教育大学》の存在とその魅力が伝わることを願います」とコメントしました。

※教員志望者における教員就職率(講師含む)平成26年3月卒業・修了者



公式facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

本誌にご意見をお寄せください。

今後の紙面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.31
webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。
この印刷物は、12,000部を648,000円で、すなわち1部54円で作成しました。

料金受取人払郵便

柏原局
承認

138

差出有効期間
平成27年
6月30日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行



※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |